

日本山岳会 越後支部報

第 4 号

平成24年6月1日
発行 日本山岳会越後支部
発行者 山崎 幸和
新潟県燕市吉田大保町4-8
TEL・FAX 0256-93-2655
広報委員長 加藤 明文

高頭仁兵衛翁（高頭祭）について

副支部長 本間 宏之

高頭祭は七月二十五日、弥彦山上大平園地の高頭仁兵衛翁寿像碑前で、支部会員はじめ多数の岳人が集まり、翁の遺徳を偲び参加者相互の親睦を深めている。

平成二十四年度第五十四回に於いて、平山善吉名誉会員により演題「高頭仁兵衛と日本山岳会」の記念講演があり、そのメモを基に次に記述してみたい。

このような行事は高頭祭の他全国各地でウェストン祭、山梨支部の木暮祭等がある。

高頭仁兵衛は明治十年（一八七七）五月二十日、三島郡深沢村（長岡市深沢町）で生まれた。幼名は式太郎。高頭家は豪農で県の多額納税者、代々仁兵衛を名のった。

高頭は山岳会の設立に資金面、人員面（会員）に大きな役割を果たした。発起人は博物学同志会の高野、小島、武田、梅沢、河田、弁護士山城、越後の豪族高頭の七人で、明治三十八年十月十四日飯田橋駅近くの富士見楼二階で、山岳会発足に関する取り決めがまとまり、日本最初の登山団体が結成された。高頭は資金面で向こう十年間毎年一、〇〇〇円（当時は年会費一円、米六〇キログラム六円）の寄付を約束した。しかし、実際は十八年間続いたという。また、人員面についてみると、『越後山岳・十一号』室賀輝男名誉会員記によれば、最初の会員名簿（明治四十年三月五日付）では全会員数四一八名、新潟支部一一〇名は東京に次いで二番目で県内の会員はほとんど高頭周辺の人脈でいたと

いう。

明治二十九年春、実父の死去により九代目仁兵衛を継ぎ、義明を名のって本名を式、号を海峰と称した。

明治三十年十一月、北蒲原郡の豪農市島家二女レイ子と結婚。衣装収納用に土蔵が新築され、花嫁行列は長岡駅から延々と続き、豪華な祝宴は三日間とも一週間続いたともいう。

生来身体が弱く、片貝まで通学一二キロメートルの歩行で健康を取り戻し、十三歳で弥彦山に登り頂上での景観に感激し、登山の楽しみを体得する。十六歳の時に煙製造中に右手、両眼

負傷し、明治二十七年（一八九四）春、眼の治療のため上京。翌二十八年二松学舎に入学し恩師と登山、必ず油紙（雨具用）と鯉節を持参したという。「日本風景論」によって更に登山欲は強められ、明治三十年（二十歳）で八海

山、苗場山等に登っていたが、危険だというので母に登山を禁止された。そのため地理、和歌、詩、文集や紀行をおよそ、六、七年間で図書三〇、〇〇〇冊、地図二、〇〇〇枚読みあさって、書き抜きをつくり出版しようと思いつき、

明治三十八年五月志賀重昂を訪問し教示を受けた。そこで、小島鳥水を紹介された。和紙八〇〇枚、毛筆の原稿は小島の意見で「日本山嶽志」と題名がつけられ翌三十九年二月、同郷

の先輩である大橋新太郎（博文館主人）の好意によって、博文館から三、〇〇〇部出版（自費出版）され、日本の山の百科辞典として大変好

評を博した。

明治三十九年四月五日機関誌『山岳第一号』が発刊されるが、その大きな要因は博物学同志会員の熱意と力、リーダーとしての小島の知恵それに高頭の資金的な援助によるものであった。明治四十二年六月に山岳会が日本山岳会と改称され、これを機会に会員章がつくられ、高頭は四番となっている。なお、バッチは武田久吉によるものである。また、高頭は機関誌『山岳』発行人として二十八年間尽力し、昭和八年（一九三三）小島会長のあと二代目会長を務め、昭和十年名誉会員に推挙される。

高頭家については『ふるさと長岡の人びと』高頭仁兵衛一室賀輝男名誉会員記より抜粋すると、来迎寺駅から渋海川を渡り西山丘陵の突き当たりで、塀を巡らした小城郭のような邸内、越後の豪農の風格を残した屋敷。郷党の信望を集めていたが、大戦後の農地解放、財産税に襲われた。

深沢地区の住民は総意で高頭の地域社会の貢献と徳を偲び苗字塚に頌徳碑を建立した。後に高頭邸の一画が長岡市に寄付され、河内公園として整備された。碑は同所に移設される。刻まれた石黒忠篤の碑文によると「高頭は深沢校を創立した父義宗の遺志を継ぎ、校地をはじめ公共用地、学校図書等で数多くの教育振興に尽くし、信用組合を組織して郷土の産業文化の発展に努めた。」とある。

山への情熱と山岳研究に生涯をかけ、日本山岳会を育て登山を目的とする近代登山（国民的スポーツ）の普及、発展の功績は永久に語り継がれていくだろう。

昭和三十三年四月六日、八十二歳でその生涯をとおした。高頭邸跡近くの大滝山・正林寺が菩提寺である。

日本山岳会越後支部に入会の頃

支部名誉会員 藤井 信

日本山岳会の胸のバッチに憧れていたころ、日本山岳会会員イコール登山家であるという、イメージをもっていた。日本山岳会は、日本の登山界を代表する会であり、戦後の国民体育大会の運営や外貨不足の時代で、海外登山を希望する団体を一隊に絞り込み、推薦、海外登山の手続きなど文部省から委託されていた。その当時、沢登り、岩登り、冬山に魅せられて、山に没頭し、山以外のことは考えられない青春時代を送っていた。国内では、横有恒が率いる、第三次マナスル隊が（マナスル峰八一六三m）初登頂に成功し、その刺激を受けてか異常なほどの登山ブームに沸いていた。

日本山岳会が主催する、マナスル登山隊員と全国各支部より二名参加の指導者技術講習会が、早春の三月、北アルプスの西穂高岳で開催された。マナスル隊員と支部参加者の三人でザイルパーティーを組み、アイゼン、ピッケル、ザイルなど冬山技術を研鑽する、講習会に参加する機会があった。越後支部から、佐藤俊彦、藤井信が参加した。

その頃、個人で家用車を持っている人はいなかった。山行きの唯一の交通手段は国鉄（JR）の列車を利用以外になかった。山に登るにも山麓までのアプローチが遠く大変であった。上野発（東京）の列車

が、谷川岳の登山口である、土合駅に早朝二時〇五分着の列車が到着すると、登山者がどつと下車して、列車の中は、ガラガラになった。ホームには登山者で溢れ返っていた。駅舎で仮眠して夜明けを待つパーティー、一ノ倉沢の岩登りでは、登る順番待ちがあつて、沢の出合いまで移動して待機するパーティー、駅舎からはみだした登山者は、土合駅から踏切を過ぎて、湯檜曾川に架かる橋を渡って、それぞれの目的に向かつて、延々と続いていた。当時、週末には、越後三山などの沢登りや谷川岳の岩登りに夢中になっていた。谷川岳の岩登りでは、鳥の鳴かぬ日があれば、長岡ハイキングクラブと越後山岳会のパーティーは、谷川岳山塊で沢登りや岩登りを楽しんでいると云われた時代である。長岡ハイキングクラブの会員には、女性だけでパーティーを組み、一ノ倉沢の岩場の登攀を楽しんでいた会員もいた。

長岡市は国鉄の要所で、かなりの遠距離の山を楽しむことができた。富士山など、新宿経由から河口湖で、早朝一番のバスを利用すれば、富士山を登頂して、下山後、新宿に戻りその日のうちに長岡に帰ることができた。

冬の合宿が終わり、越後の重い雪のラッセルから解放されて、一月には、氷の壁のアイス・クラムを楽しむために日光の雲竜

瀑に向かう。長岡から夜行を利用して浅草に出て、東武鉄道に乗り換えて、東武日光駅に早朝着く、この時の山行のメンバーは、室賀輝男、村田栄身の三人である。日光市の気温は氷点下一〇℃以下で厳しい寒さである。耳が痛くチクチクする、神橋を渡って、しばらくして稲荷川を遡行して雲竜瀑に着く、アイス・クライミングを十分に楽しんだ後、帰途に着く、今回は谷沿いに下らず、屋根伝いに東照宮の裏山を歩くことにした。静寂で自然豊かな森が続いている。その森の中に神社や信仰に関係のありそうな幾つかの、修業道場風の施設がある。数百年の年輪を経た、二本の巨大な杉の木のご神木があつて、シメ縄が張られていた。その前に四〇メートル四方の池がある。普段、池の周りに入れないように、高さ三メートルくらいの白木作りの柵がめぐらせてあった。池の中心には地下から、

事業委員会連絡

「第二回中部ブロック四支部交流会」
今年度は信濃支部担当で信州の名所高地で開催されますので、奮ってご参加ください。

期日…二〇二二年七月二十二日(日)～二十三日(月)
場所…松本市上高地 西糸屋山荘
長野県松本市上高地

TEL…〇二六三-九五二二〇六
FAX…〇二六三-九五二二〇八

定員…越後支部先着順十五名
費用…一万五千元
行事…二十二日(日) 一五時受付、
一六時交流会議、一八時懇談会
二十三日(月) 記念山行

焼岳登山(八時出発―一五時三〇分帰着)
記念観察会 徳澤園(八時出発―一五時三〇分帰着)

支部申込締切…六月二十五日
支部申込先…事業委員会

井出 秀雄 (TEL…〇二五-二六六一三二九)
小山 一夫 (TEL…〇二五-二六五一四四一七)

透明な水がモクモク湧き出していた。柵の所に立札があつて、そこには、神聖な水で全国の醸造家の…と由来の説明が記されてあった。村田栄身は、日常生活でも神社を祀り守っている信仰の厚い男である、神聖な水を親父さんへの土産にも思つたのか、白木作りの柵にアツという間に登った、柵を乗り越えようとしたとき、柵が壊れて気温は、氷点下一〇℃以下の寒さの中、池の中に真っ逆さまに飛び込んでしまった。二人は啞然として言葉もなかった。泉の水温は温かいらしく悠然と泳いでいるではないか、さすがに高校時代は水泳の選手である。水面から地上まで段差があり、二人が

新潟県の峠道紹介

横山 征平 (関川村)

日本は山国のため、隣接の地に至るには峠越えが余儀なくされ、交流が活発になるにつれ昔から峠越え道の整備が進んだ。全国には大小こそあれ、東海道・中仙道・日光街道が広く知られている。

本県では、糸魚川の信濃街道、上越の信越街道、津川の会津街道、関川村の米沢街道、村上市山北の出羽街道などが知られている。

この峠シリーズでは北から順に紹介する。機会をみて訪ねることもロマンのあることだ。

パート「1」米沢街道「大里峠」

米沢街道は大永元年(一五二・七)米沢藩主伊達種宗(伊達政宗の曾祖父)の開削で、新潟県・関川村から山形県・米沢市の城下を繋いでいる。全長は約一五〇kmに達している(現在のJ R米坂線では一〇〇km)。街道には大小十三の峠を数え、内三峠が関川村(新潟県側)にある。

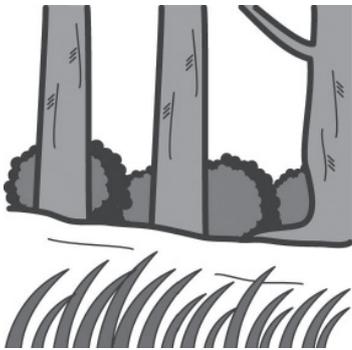
ここでは、新潟県と山形県境にある大里峠まで紹介する。

関川村下川口から街道は山道になり、鷹ノ巣峠、榎峠(戊辰戦争の激戦地)を越すと沼集落(宿場と荷物の中継地)に達する。沼は戊辰戦争のとき、焼き討ちに遭い全焼している。現在では田舎にしては道幅が広

いなど感じる程度で、宿場の面影は残らない。また、明治十一年にイギリスの女性探検家イザベラ・バードが日本人青年通訳を伴って宿泊、通過している。(その記録が「日本奥地紀行」で貴重な資料として当時を知ることが出来る。)

沼集落を出ると途中、若ぶなスキー場を横目に緩やかな山道(林道)が続く。二km程進んだところに、畑集落跡と昭和二十年閉山の銅鉱山跡(最盛期には工夫二〇〇人就労)へと続く。廃坑から六十五年経過した現在でも、なお不毛の赤茶けた鉱石の山が残る。現在はここまで林道が開かれているが、ここから県境の大里峠までの約2kmは歩道のみとなり、旧茶屋跡や僅かの石畳が街道の面影を残す。

大里峠(標高四八〇m)が新潟・山形との県境で分水嶺でもある。関川村の大蛇まつりの物語の発祥の舞台でもある。峠には有志の建立による祠があり、山形県側を四〇分ほど下ると玉川の宿場集落に至る。米沢城下はまだまだ遙か彼方になる。



山の紹介

県北②

吉祥嶽

遠山 実(村上市)

吉祥嶽は、国土地理院の地図には山名、標高の記載がない山である。

名水の里として知られる大毎集落。また、松尾芭蕉が旅した出羽街道の歴史が残る大毎、大沢の麓に位置する。

山名の由来は定かではないが、一説によると文殊菩薩の密教の呼び名で、「吉祥金剛」に関連があると言われる。大毎集落の菩提寺である曹洞宗満願寺の前身は密教寺であった。

登山口は二コースある。鳥坂口は、集落内の大海川橋手前を左に入り狭い農道か

ら、九〇〇メートル先に登山口の看板がある。杉林を少し登ると自然林に出る。約一時間で山頂。

牛の首口は、北中・高根広域農道から四〇〇メートル先に登山口の看板がある。

登山道は、農業用水路(パイプ敷設)沿いを進み、二股からは大海川を三回渡った所に案内看板があり、ここから右に入る。屋根に取り付くまでは歩きにくく、季節によつては道が分かりにくい。大沢展望台まではやや急登だが約一時間三〇分で山頂。

新緑、紅葉の季節は、棚田と周辺風景が見事に調和した典型的な原風景で心が癒される展望である。二コースの登山口には、駐車場がないため満願寺にお願いした方がよい。水を大切にしたい生活文化を見る周遊をお勧めしたい。

自然保護委員会(活動速報)

平成二十三年度の自然保護委員会は低調であったが、三月二十五日に弥彦山の雪割草パトロールで幕を閉じました。あいにく当日は真冬並みの天候であったが、支部長、自然保護委員四名と地元を含む会員十名で野積側の西生寺から登りました。雪割草は咲き始めていたが、四合目付近からは雪原でした。能登見平で吹雪となりパトロールを中止して下山しました。

自然保護委員会が当面予定している恒例の清掃登山はつぎのとおりです。

・支部総会後守門大岳の親睦登山にあわせて清掃登山を行います。

・七月二十五日高頭祭の清掃登山は午前十一時〇〇分清水茶屋集合です。

山靴

山に魅せられて

根津 洋子 (小千谷市)

友人に誘われ地元のハイキングクラブに入会し、山歩きを始めて十年になります。それまでは、若かりし学生時代に富士山や尾瀬等、数回登ったことがあるだけでした。

当時の小千谷ハイキングクラブの会長であり、私が山の師と仰ぐ目崎さんに「登山の訓練は山に登ること。」と教えを受け、近くの時水城山へ登り始めました。時水城山は標高三八四mの低山ですが、急坂もあり山頂は三六〇度の展望で、春にはカタクリが全山に咲き夏には山百合が登山道を飾ります。ここ四年位は一年に三六五回登頂を目標に、毎朝出勤前に登っています。往復一時間程度の山ですが、今年の大雪には泣かされ三時間余ラッセルして登った日もありました。雨の日も雪の日も登り、その成果は大いなるものと確信しております。

休日と言えば山仲間と入山し、昨年は五十日以上を山で過ごしました。出会った花に感動、景色に感動、山頂に立った時の達成感、そして何よりも山の仲間との語り合いに心が豊かになります。

今年の目標は日本百名山完登、来年は時水城山二千回登頂、そしてこれから二十年位元気でいたら城山一万回登頂できるかな、などと夢は広がります。家族は呆れている様子ですが、応援もしてくれています。山に魅せられ山を歩き、日本山岳会のお

仲間に入れさせていただき、すばらしい先輩方のご指導で、今有意義な人生を送っています。これからも、人生も山も一歩一歩進んで行こうと思います。

事務局連絡

二〇一二年度日本山岳会全国支部懇談会

全国各支部の山を巡り岳友たちと語り合う支部懇談会が、今年も千葉支部が担当することになりました。千葉支部設立五周年の節目に当たる記念行事として盛大に開催されます。参加者を募集しておりますので、ご希望の方はご連絡ください。

期日：二〇一二年十月二十日(土)～二十一日(日)

場所：国民宿舎サンライズ九十九里

千葉県山武郡九十九里町真亀四九〇八

TEL：〇四七五―七六一四一五一

FAX：〇四七五―七六一四九〇八

定員：三〇〇名(宿泊可能人数)

費用：一万七千円

行事：

二十日(土) 一四時受付 記念講演会、

懇親会、アトラクション

二十一日(日)

裸足で歩こう九十九里ウォーキング九十九里(片道五km)

笠森グリーンルート関東ふれあいの道(二一km)

支部申込締切：八月末日

支部申込先：事務局

桐生 恒治 (TEL：〇二五八―六二一〇一四八)

支部会員移動連絡

二〇一二年十一月二十一日

二〇一二年四月十六日現在

1) 物故会員 (一名)

朝妻 三松 (No.6086) 3/24逝去

2) 退会会員 (二名)

① 頓所 正昭 (No.10246)

② 渡部惣四郎 (No.13396)

3) 支部会員総数

二〇一二年四月十六日現在

支部員総数 二三四名(支部会員二三名、会友一名)

編集後記

写真①は本場のエーデルワイスです。ヨーロッパ大陸広しと云えどこれ一種です。小さな日本には五種(九種類)もあり我が越後の山岳にも二種(四種類)が産します。広い北海道には一種一変種ですからウスキソウは狭い所が好きなのかなあ。



①エーデルワイス

ベルナーアルプス(スイス)

②はエーデルワイスと呼ばれて人気がありますが、この仲間ではなくレウコゲネス属です。



②サウスアイランドエーデルワイス

サザンアルプス(ニュージーランド)



③ミヤマウススキソウ

飯豊連邦(新潟)

本号は紙面の都合上、私の一枚を休めます。